
零から始まるファンタジー

わたりんご

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

零から始まるファンタジー

【Nコード】

N1364U

【作者名】

わたりんご

【あらすじ】

南里零^{なんりれい}は18歳の女子高生だが、ある日異世界へ召喚され魔王になつてくれと懇願される。

理由は大人の事情あれこれあるみたいだけど、魔王って……

これはアクティブな主人公が世界を制圧するまでの物語……の予定です。

空き時間で書いているので更新は遅いかもです。

プロローグ（前書き）

初めまして。わたりんごと申します。

至らぬ点もあるかと思いますが、もし何かお気づきの点がありましたらそつと教えていただければと思います・・・

マイペースにぼちぼち細く長く頑張りますのでよろしくお願い致します！

所々流血表現や暴力的なシーンが含まれることがあります。

プロローグ

雨が降っている。

雨音がうるさくて周りの音がよく聞こえない。

ああ、私の命はもう消える。

地に臥した体はぴくりとも動かず、わずかに視線を上げれば私を見下ろすものをとらえる。

薔薇色の髪を雨に濡らし、緑の瞳に暗い影を落とし、私を見下ろす彼女は泣いていた。

泣いている顔など見たくないのに。

けれどもそれは私のせいだ。

約束を守ることができず、運命を曲げてしまった。

彼女は生きようと望むもの全ての希望。

私は生きようと望むもの全ての絶望。

決して相容れず、共存はあり得ない。

私はもう死ぬだろう。

腹部に2カ所、右肩1カ所、両足に腕などよくもまあこんなに切り刻んでくれたものだ。

私は魔王で、彼女は勇者だ。

彼女が私を打ち倒す。

ハッピーエンドじゃないか。

もう勇者であるとか、使命だとか、権力とも無縁な生活だって望める。

ああ、最期にもう一度・・・

君の声、が・・・

フラウル歴2650年史上最強の力を持った魔帝レイオスは若干17歳の女性勇者によって葬られる。

それ以降彼女は歴史の表舞台から姿を消し、安定を取り戻した世界は人々の間での覇権争いといった形により再び混沌の世界へと姿を変える。

勇者が魔王を倒してから、わずか2年後のことであった。

目が覚めればそこは・・・（前書き）

6月26日大幅に加筆・修正いたしました。

なんかもうすいません。

目が覚めればそこは・・・

初夏の気持ちいい風が入ってきてカーテンを揺らす。

いい感じに日差しも入ってきて絶好のお昼寝日和である。私の今いる生徒会室も今はそんなまったりとした雰囲気にも包まれていた。

「気持ちいいねえ。もう帰っていいかな？」

「いけません。男子の水着のブルーメランパンツを変更してほしいとの嘆願書が届いています。」

私の心からの提案は横にいる副会長の言葉であっけなく却下された。ああ、うん。あの水着は色々恥ずかしいもんね。一緒に授業をしている私たち女子も目のやり場に困る。変えちゃえ変えちゃえ。今までだって結構無茶通してきたし。

「じゃあ各学年ごとに男女で署名集めて、代わりの水着の案をいくつか用意して私はその間に先生と生徒の意見をリサーチして・・・来月の委員会で通せるようにしようか。実際に反映されるのは早くて来年度か再来年度だと思うけど。」

「了解です。」

やつぱりたった3年、されど3年。思いついたらどんどんやらないと面白くないしね。だから私、南里零はこの高校の生徒会長に立候補したのだ。とはいえ、それももう来月の6月までだけでも。3年生になると受験のため生徒会には6月までしかいられないからだ。今は5月だからまもなく引退しなければならない。

「ちょっと、さみしいなあ・・・」

「会長、何か言いましたか？」

「なーんにも」

ぼつりと呟いた言葉は、5月の風が攫って空に消えていった。

*

高校3年で悩むものの一つに進路、というものがある。私も一応は大学進学を考えているがその先はまだ何も考えていない。というか何も考えつかない。どうしたいのか、どんな職に就きたいのか明確な答えを出せないままだ。まだ焦る必要はないのかもしれないが、なんとなく気持ちがすっきりしない。

そんなことを考えながら歩いていたら家が見えてきた。大好きな布団のある愛しの我が家。いや、世帯主は父親だが・・・すでに帰ってふかふかのベッドにダイブする自分を妄想しながら家の門をくぐると、ふと横に置いてある車に目がいった。正確には、車のガラスに映る自分の顔だ。少したった目元にまっすぐな眉毛、黒髪を軽いウルフヘアにして散らしている。最近行った美容師のお兄さんにこんな髪型にされてしまった。もうあそこにはいかないぞ、と心に決めて見慣れない自分の顔を映す車の窓を通り過ぎ、玄関に力ギを差し込む。

ガチャリ、と鍵を回すと
グニヤリ、と世界が歪んだ。

*

ひどい耳鳴りとめまいに思わず倒れこみ、顔を上げたらそこは・・・

「魔王様！お待ち申し上げておりました！」

不思議の世界に迷い込んだみたいです。

目が覚めればそこは・・・（後書き）

オーソドックスな流れで面白味も何もなく・・・
これから頑張っていきます！

なんだか新鮮でないネタも入っておりますが、食あたりにはご注意ください。

大幅に修正いたしました。何度もすみません・・・やっぱり〇斗の拳を見ながらだとテンションがおかしくなるから駄目ですね。気を付けます。

ここまでお読みいただきありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1364u/>

零から始まるファンタジー

2011年10月9日01時50分発行